

出前講座「防災・減災のススメ」の要約

日時・場所： R7 年 5 月 31 日（土）19:00～20:10、川地コミュニティ 大会議室
講師： 林 係長（危機管理課）
出席者： 全部で 14 名
要約： 川本事務局長が司会進行。林係長は、自己紹介ののち配布資料（本体）をスライド映写しながら説明し、その後に質疑応答。最後に配布資料（タイムライン）について説明があった。

質疑応答の要約：

SE 氏： 内水洪水の被害域内に住んでいる。福岡市長の選挙演説があり、“川地地区は内水被害で”と冒頭発言があったが、それ以上の言及はなかったので市長もそれ以上の認識はなかったと思う。当選後の川地地区の内水対策は何もなく逆に願万寺に注力された。聞きたいことは、当初の排水ポンプ場の処理能力と、最近は異常気象で線状降雨帯などが発生しているので現在の想定外雨量という現実に対してポンプ場の能力がどの程度（何％）あるのか。初期は“100％対応できますよ”だったのが、現在の異常気象下では 50％くらいしか対応できないのか。そういう資料があれば説明していただきたい。また、70 年余り住んでいるが実際にはハザードマップほどの浸水は起きたことは無い。H30 年頃の水害でも川地地区の避難者が 1 割 180 人程度だったというのは、そういう現実を踏まえたものだと言える。ほとんどの人は避難を考えていない。他に山崩れもない。ため池も崩れない。堤防も決壊しない。川地で困るのは内水洪水だけだ。

林係長： 手元に資料はない。先ほど話したように上志和地排水機場は農業用施設として整備してきている。当初時にどれくらいの滞水を許容するかという資料があったように思うので後で返事させていただきたい。内水被害の話があったが、H30 年の豪雨を受けて、当課では内水対策の方針を示している。その目標は「床上浸水の解消」です。床下浸水も大変な被害なので全ての床下浸水を解消したいのだが、それには期間も費用もかかる。さらにハード面の整備と併せて、皆さんに「逃げていただく」、「訓練をする」などと併せて実施するのが市の方針です。

人吉市の災害例で話したが、「まさか決壊はしないだろう」と云われていたのに決壊した。身近なことほど経験が判断を左右するとは思うが、早く避難することが大切だと考えている。

WK 氏： ポンプ場そばに住んでおり、内水被害で 2 年に 1 回くらい避難している。被害が起きるときは機械が壊れている。何回か壊れているのでそういうことが無いようにしてもらいたい。それとパトランプが回っていてブザーが鳴っているときがある。あれは何ですか。その時に市役所に連絡がいかないのか。一晩中鳴ってうるさい時があった。

林係長： 過去にポンプ 2 基のうち 1 基が動かなくなったことがあることは承知している。点検とか分解整備を適宜やっているが、絶対に故障が起これないとは約束できない。止まってしまうというリスクを避けるためにも今回の設備の更新と分解整備を行い万全の態

勢で出水時期が迎えられるよう取り組んでいきたい。パトランプは、何年か前に地域から要望をいただいて、ポンプが稼働しているときにはパトライトを回すように設置した。ただ、配線の不具合で去年もビービー鳴っているという通報をいただいた。

ST 氏： 今回の上志和地排水機場修理について、地元には修理のスケジュールの紙しかなくて何をするのか分からなかった。そういうことは危機管理課として地元説明はどのようにされているのか。もう一つはポンプ場の運転の仕方、例えば江の川の水位がどんどん上がっていくとポンプは排水しきれなくなってくるのではないかと。そうすると運転している人は、市のマニュアルがあってそれに沿って運転しているのだろう。どういう運転をするのかを地元にも教えてもらえないか。いざとなったら運転手は逃げてよいというようなこともあるのではないかと。

林係長： 今回の改修工事については、ご指摘のとおり近隣の常会の皆さんには工事のスケジュールのみお知らせして、今回のような機会は設けなかった。申し訳ありません。今回の工事は、出水期間中は変わらず稼働できるということと施設の増強をするものではないということもあって日程のみのお知らせとしたが、ご指摘のように工事の様子や目的などについては事前に通知しておくべきことだったと思う。運転マニュアルについては、操作員はなるべくポンプ場の近くに住んでいる市職員を担当に充てている。細かな内容までというのは難しいかもしれないが、運営手法を説明する機会を設けることを検討したい。

TH 氏： この川地コミュニティは補助避難所に指定されているが、ハザードマップでは浸水深が3～5mになっている。基幹避難所は川地小なので、恐らく基幹避難所に早めに移動するようという考えと思う。基幹避難所でまかなえないほどの災害になった時には、ここも使うという考えではないか。心配することは、5m浸水では2階の床までで、電気やトイレも止まる。そういう状態でも避難所として運用する考えなのか。また、そうであれば施設としての改善、例えば受電設備を屋上に上げるとか簡易トイレを整備するとか階段のバリアフリー対策とか、そういったもの描かれているのであれば、住民へもそのように説明できる。

林係長： 川地コミュニティセンターは補助避難所です。第一義的には「高齢者等避難」が出た段階で川地小に逃げさせていただくことを一番にお願いしている。身近な施設という意味でこの施設に来られた場合は、なるべく早い段階で川地小に移動してもらうのが一番だと思う。一階が浸水すると、電気が止まりトイレが使えず物資も届けられないという状況が考えられるので、なるべく早く基幹避難所に行っていただきたい。逆に川地コミュニティセンターを補助避難所に指定しておくことで混乱を招くということであれば、補助避難所を別のところに変えることもできるので、この点は市の防災組織と今後協議をさせていただきたい。川地小に一本化するということも今後検討していきたい。

(以上)